

### 取組の背景・目的

日本の林業には以下の問題があります。

- ① 国産材の需要の減少・・・林業従事者の経営悪化に繋がる
- ② 林業従事者の減少・・・環境悪化や自然災害の誘発に繋がる

炭焼きの活性化や木育の伝搬によって、以上の問題解決を目的として活動しています。

### 取組と考察

#### 1. 炭焼き産業の実態把握に向けた浦幌木炭（株）での実践調査（2023年6・7月実施）

浦幌木炭（株）では後継者問題について以下のように考えています。

- ・家族継承だけでなく、複数人の職人による継承
- ・専業ではなく、他の仕事との兼業

⇒ 後継者を増やし、職人一人にかかる負担を減らすことを試んでいます。炭焼き体験を受け入れることで仕事に触れるきっかけを作るなど、オープンな環境になっています。生計を立てられる環境を作ることができると考えます。



炭焼き作業の様子

#### 2. 千葉県浦安市舞浜3丁目自治会秋祭りでの実践活動（2023年10月実施）

自分たちが炭焼き作業をして完成した炭を用いて、串焼き販売や木育教室を開催しました。木育教室では、以下の声がありました。

- ・木炭や木質ペレットに初めて触れた。
- ・見た目目が可愛いだけでなく防臭などの効果がある点が良い。
- ・子供たちにとって良い体験となった。

⇒ 都会の人は木炭に触れる機会が少ないという結果を得ました。木炭に触れる機会を増やすことで自然を身近なものとして感じられるのではないかと考えます。



秋祭りの様子

#### 3. 炭焼き認知度・木炭効用・木炭使用量にかかるアンケート調査実施

- ・炭焼きを木炭の製造ではなくバーベキューと勘違いする人が多くみられました。
- ・熱源・脱臭など代表的な効果の認知度は高いが、土壌改良・食用などの認知度は低いです。
- ・木炭の利用は、全く利用しない人と5kg以下利用する人で半数以上を占めました。

⇒ 都会では木炭の効用について、熱源として認知度が高くなっています。マンション暮らしが多い都会において熱源として利用するのは難しいため、熱源以外の効用を認知してもらう必要があると考えます。

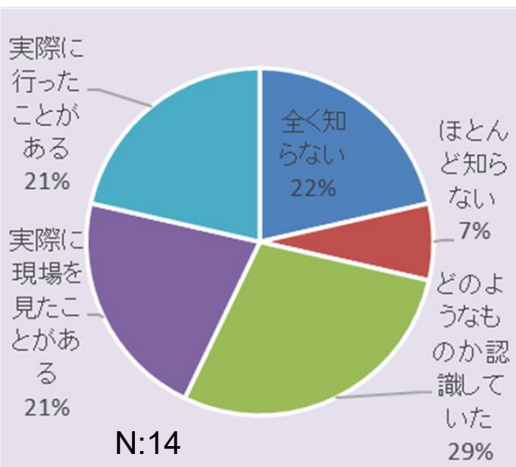


図1 炭焼きの認知度

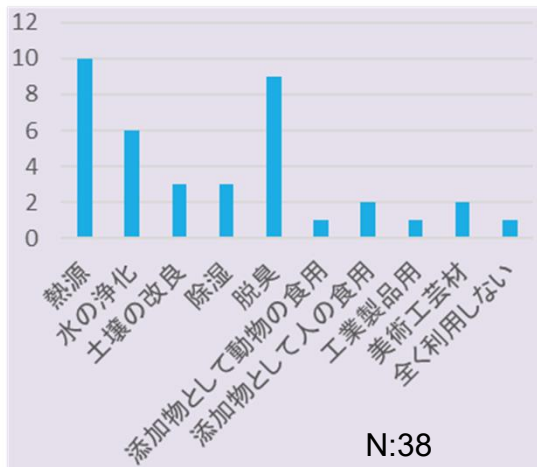


図2 木炭の効用

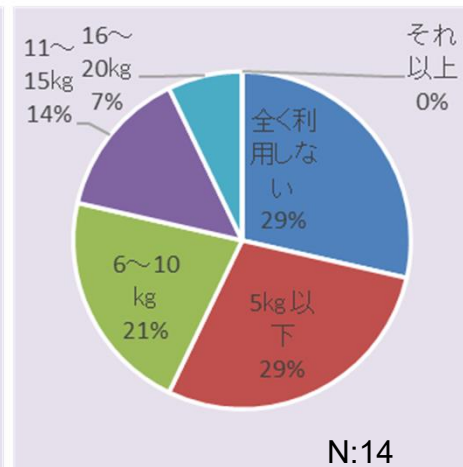


図3 木炭の使用量

### 今後の展開

都会に住む人には炭焼きの現状や木炭の効用についてあまり知られていませんでした。木炭を都会の人にとって身近な存在にすることが問題解決に効果があると考えます。今後は自身の学びや経験を多くの人に伝えるために木育インストラクターの資格を取得し、都会を中心に工作教室などの木育教育を引き続き行っていきます。